

『どんぐり探偵団をしよう』の実践

札幌市立三角山小学校 佐藤 広也

◆単元のポイント~~~~~

「どんぐり」という木はありません。同じように見えるどんぐりも様々な種類があります。しかし、北海道では、ミズナラ、コナラ、カシワのどんぐりが一般的です。植物園から道庁にかけての並木、教育大学札幌校前の並木、森林管理局横の並木、動物園前の並木、緑丘小の校庭、三角山小の畠の上一本はアメリカのアーノルド植物園から来た「アカナラ」(アカガシワ)です。時たまクヌギもあります。広葉樹の代表のどんぐりが生活とどうかかわるのかを探偵し、遊び、どんぐりの仕分けまでできれば、他の学年に頼まれて教えにいきます。「どんぐり銀行」(旭川や香川等)も楽しい活動です。

○「どんぐり」を学びながらくらしを見つめる

「どんぐりころころ」の歌は札幌出身の梁田貞の作曲です。「どんぐり探偵団員」の資格は2番まで歌えること。3番を考えるのは国語の時間。広葉樹の代表とも言えるどんぐりはブナ科の殻斗(かくと)のあるものの総称。近くにどんぐりが落ちていれば、それ行けどんぐり探偵団! どんぐりは戦争中は食料として推奨され、薪や炭として使われ、しいたけのほだ木でもあり、こまや笛、ペンダントにもなります。遊ぶだけの対象から、樹木としてのどんぐりへ視点を移し、葉や殻斗までまるごとどんぐりに浸りましょう。

○「どんぐり」で遊び抜く

どんぐりに穴をあけて、こまやペンダントを作る方法でとておきの<佐藤式穴あけ法>を伝授しましょう。それは「ヒートン」(ヨートーでもよし)手に收まりあまり力がいらす安全簡単に穴があきます。こまやペンダントもお手の物。人形も。俳句やぞうむし遊び、どんぐりまんがもできます。

○「どんぐり」を見分け、どんぐり情報をまとめる

拾ったどんぐりを検索できればもう一流。紙芝居にまとめて1年生の依頼で、見分け方遊び方を教えに行きます。実生にも挑戦。

◆単元の目標~~~~~

- 様々などんぐりを集め仕分けしようとする。 (関心・意欲・態度)
- どんぐりの検索の仕方や生活を調べ、必要な情報を伝えることができる。 (思考・表現)
- 常に双方向のやりとりを意識した活動をしようとする。 (気付き)

◆単元の構成（9時間扱い）~~~~~

どんぐり探偵団をしよう

理科や社会で
動き
国語で記録

ドングリを集めて探偵団を
しよう（2）

理科で

集めたドングリを分類して
図鑑で検索しよう（1）



集めたドングリで人形やペ
ンダント、こまを作ろう
(2)

図工で

ドングリ情報を紙芝居にし
よう（2）



紙芝居を希望の学年に出前
しよう（2）

<留意点>

- ・片っ端からどんぐりを集めよう。
- ・かくとや葉っぱもいっしょに集めよう。
- ・「まるごとどんぐり」やドングリの図鑑で見分け、特徴を押さえて仕分けする。
- ・木の枝やいろいろな木の実やつるでドングリ人形のオーケストラを作ったり、ペンダント、こまを作る。どんぐり染めも。
- ・これまでの活動をまとめ仕分け方法などを大型紙芝居に仕上げる。
- ・他の学年の要請を受け付け出前に向かう。
- ・どんぐり団子や実生実験も。

◆実践するにあたって~~~~~

遊び道具としてのどんぐりの視点だけでは、総合的な学習の素材にはならないのです。植物として、食料として、文化として、商品としてのドングリの有り様を探偵したり、体に蓄積したドングリの知が誰かに伝えたい情報として出てくるのです。なぜドングリの木の下はドングリ畠ではないのでしょうか。